

美保南まちづくり協議会（鳥取県）

美保南まちづくり協議会の副会長をしております西垣と申します。安心・安全で住みよい、魅力ある美保南を目指して活動しております。本日ははるばる鳥取からやってきました。どうかよろしくお願いをいたします。



それでは、鳥取市の紹介から始めたいと思います。鳥取市は鳥取県の東部に位置しており、人口が18万2000人、県庁の所在地です。鳥取砂丘、あるいは因幡の白ウサギの伝説、温泉や二十世紀梨、松葉ガニなど自然に恵まれた静かな城下町です。「スタバはないが砂場はある」というダジャレが得意な平井知事が有名になりましたが、ご安心ください、今ではスタバもピザハットもドン・キホーテもございます。機会があればどうぞお越しください。



私の住む、美保南地区の概況です。鳥取駅を南へ約1.5km、人口は約8000名、世帯数は3300、児童数が548名です。今なお、人口が増え続けています。

当地区の近くには鳥取インターがありまして、兵庫県とつながる29号線と岡山県とを結ぶ53号線が、地域のだ真ん中で交差しています。生活に

は大変便利な反面、交通事故の危険性の高い地域でもあります。「まもるんじゃー」の存在意義と役割は、まさに、子どもたちを交通事故から守ることにあります。

それでは、取組をご紹介します。

正式名称は、「美保南地区子ども見守り隊」です。通称、「まもるんじゃー」です。これは当時の6年生にネーミングをお願いしたものです。応募作品の中から生まれた名称で、悪と戦うゴレンジャーをヒントに作ってくれたそうです。このように「まもるんじゃー」は、スタート時から子どもたちの強い期待を受けて、誕生したことになります。設立は令和元年7月。今年でちょう

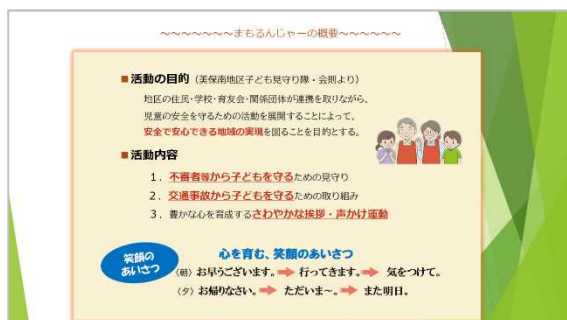
ど丸4年になります。

こちらは発足式の模様です。体育館で行われた発足式には、全校生徒557名、見守り隊60名、地域団体や警察関係の方々、そして鳥取市の協働推進課などたくさんの方のご列席をいただき、盛大に行われました。児童の代表から感謝と激励の挨拶をもらい、最後は蛍光色のベストを全員に授与しました。



「ながら見守り」という言葉が鳥取では初めてのことだったので、当時、大きな反響があり、発足式の模様はテレビや新聞でも大きく取り上げられました。右下が、結成を伝える新聞記事です。非常に大きく取り上げてくれました。

現在、隊員数は67名、そのうち女性は17名で、女性の比率が高い団体だと思います。平均年齢は72歳くらいでしょうか。



順序が逆になりましたが、活動の目的と内容をご紹介します。

当地区でも以前、老人クラブの有志5、6名でパトロール隊が結成され、車で巡回して見守りをしていただいております。しかし、それは当番制で、日時やコースが細かく決められていた上、高齢化や体調不良もあり、次第に人数が減って個人

の負担が増え、ついには立ち消えになってしまいました。やはり、新たに見守りを始めるには、ともかく継続が一番と、何度も話し合いを重ねて目的と内容を決めました。

目的はもちろん、安全で安心できる地域の実現です。内容は3つあります。

まず、不審者等から子どもを守る。

2番目、交通事故から子どもを守る。

そして3番目に、挨拶・声かけ運動を挙げました。子どもたちと会ったときには、大人から笑顔の挨拶をしよう。子どもからの返事があるがなかろうが、ともかくこちら側から挨拶する。朝、我々が「おはようございます」と言えば、子どもたちが「行ってきます」と言います。さらに加えて「気をつけてね」。あるいは下校時に「おかえり」と言うと、子どもたちが「ただいま」と言います。そこでもう一声、「また明日」。このように一声ではなくて、さらにもう一声かけることを、心がけています。

そして、ここからが本番です。「まもるんじやー」の基本姿勢は、ながら見守りです。ながら見守りとは、犬の散歩をしながら、ウォーキングしながら、花に水やりをしながら、農作業をしながら、文字通り、何かをしながら見守ることで



す。この、ながら見守りが決まるまでには、「規則をきっちり決めてやろう」、あるいは「縛りをなくしてゆるく活動しよう」など、いろいろな意見が出ました。そうした中、ある方の「特別な活動を始めるのではなく、日常生活の一部に見守りを取り入れたらどうだろうか」という意見から、目指すべき方向が決まりました。

そこで導入したのが、ながら見守りです。「継続こそ力なり」ですから、とにかく無理をしない。できる人が、できるときに、できる範囲で見守ります。低学年の下校は午後2時30分頃、高学年の下校は午後3時20分頃であり、子どもたちの帰ってくる時刻に合わせて活動を開始します。全ての児童が通過すれば、一応、終わりですから、正味1時間程度の活動ですみます。そして、入会も退会も自由。「いつでも入会、いつでも退会」と、うたっています。

嬉しいことに、最近、若い方の入会が増えています。もちろん団体で、ボランティア保険に加入もしております。

また、下校時の見守りを重点にやっています。登校時は、集団登校する子どもたちを交通事故から守ります。下校時は少人数の自由下校になりますので、防犯の観点から、不審者から子どもたちを守ることを重点に置いています。時間に余裕のあるメンバーは、最も不審者の多い時間帯と言われる午後3時から午後6時の時間帯も、引き続き見守っています。

これが、ながら見守りの活動の様子です。これは大雪の日でした。雨の日もあります。水やりをしながら、ジョギングをしながら、あるいはグラウンドゴルフをしながら、見守りをしています。とにかく「可能な日、可能な時間、可能な場所で」をモットーに、生活の一部として、自然体で活動しています。



右上に、見慣れないマークがあると思います。「ゾーン30」という表示です。これは車の速度が30キロ以下に規制されたエリアです。今年2月、小学校を中心に700m四方の範囲が、念願の指定を受けました。交通事故防止、あるいは運転マナーの向上に効果があるのではないかと、期待をしています。

また、子どもの下校を迎える保護者の方、そして、毎日お孫さんを出迎えに来られるおじいちゃん、おばあちゃんも相当数いて、地域の応援団として見守りを手伝っていただいています。ありがたいことです。



ここからは、「まもるんじゃー」の特徴を4つ、ご紹介します。

特徴の1番目は、郵便局との活動提携です。公民館長がメンバーとして見守りをしていたとき、毎日同じ時刻に、赤いオートバイの郵便配達の方と会うことに気づきました。そこで、郵便局の知人に見守り活動のことを話したところ、トントン

拍子に良い方向に進み、令和3年2月に鳥取中央郵便局、小学校、まち協の三者で、見守り活動の提携ができました。一番左が交付式の模様です。提携の内容は、郵便局の方が配達業務中、あるいは営業活動中などに、登下校する児童の見守りを行うというものです。子どもの異変に気づいた場合は小学校へ連絡する。緊急性を感じた場合には、直接、鳥取警察署及び鳥取消防署へ連絡していただくことになっています。地域貢献を目指す日本郵便と「まもるんじゃー」の思惑が見事に一致した事例として、マスコミでも大きく報道されました。今のところ、通報等の事例はありませんが、「この地区は防災意識が高いぞ」「この地区は監視の目が多いぞ」と思わせることが、とても大切だと思っています。今後は運送業者、佐川急便やクロネコヤマトなどの宅配業者、あるいはタクシー協会などと連携したいと考えています。

特徴の2番目は、メールの活用です。これがマチコミメールのアプリです。マチコミメールは全国の自治体や、数多くの小、中、高校で、学校と保護者の連絡メールとして幅広く利用されています。うちのメンバーもほぼ全員がスマホを持っていますから、マチコミメールをダウンロードして、不審者情報、あるいは大雨や台風などの警報の発令、児童の下校時間や学校行事の時間変更など、小学校から送られてくる情報をスマホで受信して、瞬時に情報を共有することができます。特にコロナの関連のときには、非常に有効な力となりました。



ここに、私に届いたメールを2つ、載せておきました。1つは、「本日の学校遠足は予定通り実施します。まもるんじゃーの皆さま、見守りよろしくお願ひします」というメールです。もう1つは、鳥取市に不審メールが届いたために動員されたとき、「本日はお忙しい中にもかかわらず、たくさんのまもるんじゃーの皆さまのご協力をいただき、心より感謝申し上げます。おかげさまで児童も安心して下校することができました。ありがとうございました。」というメールです。普段は、会員同士はLINEを使って連絡を取り合っています。

特徴の3番目です。子どもたちとの交流・ふれあい。小学校との連携です。

1つ目は、3年生の授業に参加しての意見交換です。3年生の総合的な学習の授業に参加し、小グループに分かれて「まもるんじゃー」の目的や活動内容、そして挨拶の重要性などについて意見交換をしています。後日、児童からのお礼のお便りが届き、我々の励みになりました。



2つ目は、6年生の清掃ボランティアへの協力です。卒業を控えた6年生が、地域への恩返しの気持ちで自発的に企画した卒業プロジェクト「地域清掃ボランティア」があります。その趣旨に賛同して、見守りを兼ねて道路や公園の清掃活動と一緒に参加し、良い汗を流しました。子ども

たちのボランティア活動の意識は、確実に育っています。頼もしい限りです。この様子は新聞に掲載され、卒業時には感謝状と花束をいただきました。

3つ目は、全校遠足の見守りボランティアです。恒例の全校遠足では、目的地のサッカー場まで片道2km、交通量の多い国道を歩きます。500人を超える児童の列は圧巻で、とても引率の先生だけでは手が足りません。そこで「まもるんじゃー」と各種団体とで、平日にもかかわらず総勢60名を超える遠足ボランティアを組織し、交通の要所に



配置して、安全な誘導のお手伝いをしています。これは、開校以来の伝統行事として、今に引き継がれています。この他にも田植えや稲刈り、野菜作りや梅ジュース作りなど、当地区では、地域と学校が連携した学校支援のボランティアの活動が盛んに行われています。

特徴の4番目。手作りの、ひらがな名札の着用です。女性会員のアイデアで、全員分の、60個もの名札を作っていました。早速ベストに付けて、活動をしています。今日は、こちらに待ってきております。ベストに、このような名札をつけて活動しますと、驚くべき効果がありました。1年生でも読めるように、ひらがな表示にしたこと



が大正解。かっこいい、かわいいと大評判で、「おっちゃんは『にしがき』という名前だったんだね」「にしがきのおっちゃん、おはようございます」と子どもたちが声をかけてくれるようになりました。名前と顔が分かることで子どもたちに安心感が生まれ、会話が増えました。子どもたちも保護者も、名前を読んでくれるようになりました。名札を付けることで、会員にも自覚と使命感が生まれました。不審者への抑止効果も期待できると思います。

このように、お金をかけなくてもちょっとしたアイデアで、思いがけない効果を生むことができます。思いついたらやってみる柔軟性が重要だと、痛感しました。



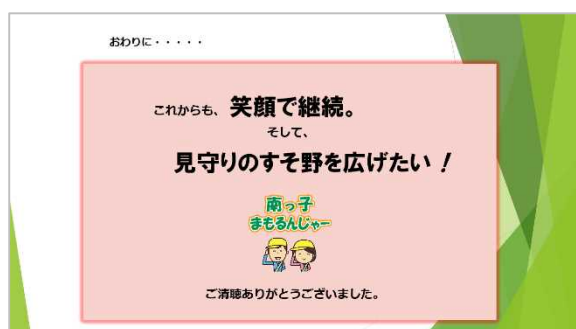
最後に、今後の課題と目標についてです。

設立から4年を経過して、「継続する」という当初の目的は、一応達成はしていますが、マンネリ化は否めません。県警の生活安全課に講師をお願いして、研修会や講習会を開催し、パトロールのポイントや見守り活動での子どもたちへの関わり方などを学んできましたが、不審者と遭遇した

ときの対処法など、知識や訓練は、まだまだ十分とは言えません。

今後は、会員のスキルアップにつながる企画やイベントを実施しながら、いかにして会員のモチベーションを維持し、会員数を増やすことができるかが今後の課題と考えます。

また、今後、「まもるんじゃー」の地道な見守り活動が大きくなるとなると、それを、地域の宝である子どもたちを「みんなで育てる、みんなで守る」という地域全体の取組に、どうつなげていくか。これが今後の課題です。そのために、来月7日に予定していますが、九州から講師を招いて、防犯スポーツ教室という新しい切り口の防犯イベントや、現在使用している交通安全防犯マップの更新などを通じて、地域の防犯意識の向上につなげたいと思っています。



最後になりましたが、笑顔で継続すること、そして見守りのすそ野を広げることに、今後も取り組んでまいります。しかも、楽しみながら。

つたない発表となりましたが、資料をまとめることで、今後の課題を見つける貴重な機会を与えていただきましたことに、心から感謝申し上げます。ご清聴ありがとうございました。

講 評

大杉 「南っ子 まもるんじゃー」という素晴らしいお名前が付いていて、ほんわかとしながらご発表を聞かせていただきました。どうもありがとうございました。何点か、感想も含めて、私からお伺いさせていただきます。

67名ものメンバーの方がいらっしゃって、かつ、4年間継続して活動を広げているということで、非常に感銘を受けました。素晴らしい活動だと思います。お伺いしたいのは、「若い方の入会も増えている」とのことでしたが、その理由や工夫等があれば、教えていただけますでしょうか。

発表者 下校時の見守りが中心になっているものですから、若い方は仕事がありますので、なかなかその時間に参加することができないとのことでした。しかし、「いえいえ、ながら活動なのです。できるときに、できることをやっていただければよいのですよ」ということが、だんだん伝わって、「それならできる」「それなら仕事は何とかなる」と、ありがたいことに若い方の入会が増えています。ですから、ガチガチの規則で運営するのではなくて、融通性を持たせて、「みんなで続けてやっていこうや」ということが、若い人の獲得につながったのではないかと考えています。以上です。

大杉 ありがとうございます。他の団体の皆さまにも、非常に参考になる取組だと思ったので、最初にお伺いさせていただきました。また、活動の継続に当たって、子どもたちからネーミ

ング募集をしたり、子どもからの依頼があつて清掃ボランティアをしたり、日頃の挨拶ももちろんなのですが、子どもと密接に関わりながら活動ができているところも、非常に素晴らしいと思いました。

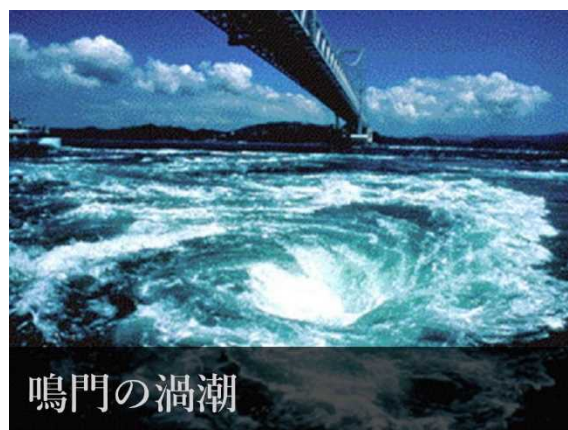
それから、もう1点です。スキルアップを常に考えていらっしゃる姿勢が、印象に残りました。まだまだだとおっしゃっていますが、とてもいろいろな活動をされていると思いました。そうした姿勢を、私も見習わせていただきたいと思っています。

ひらがなの名札を、カラフルなフェルトで作ったというお話も、とても素晴らしいと思いました。私どもの学生のボランティアも、手書きであだ名の名札を作り、首から下げて活動していますが、フェルトで、しかもカラフルに作られているのがとても良いと思いました。参考にさせていただきたい点だと思います。ありがとうございます。

東みよし町昼間駐在所地域の安全を守る会（徳島県）

徳島県「東みよし町昼間駐在所地域の安全を守る会」の発表をさせていただきます。

まずは、鳴門の渦潮です。瀬戸内海と紀伊水道をつなぐ鳴門海峡は、潮の緩慢により、速いときには時速 20km もの急流となり、そこに大小無数の渦が発生します。渦は直径 20m にもなることがあり、渦と海峡に掛かる大鳴門橋が調和した、雄大な景色を見ることができます。



次は阿波踊りです。阿波踊りは 1587 年に阿波藩主 蜂須賀家政が徳島城を築き、落成の祝賀行事で人々が踊ったことが起源とされています。現在では、毎年 8 月 12 日から 15 日の間が踊りの期間になっております。そのときには全国から 130 万人もの見物客が訪れ、町中が阿波踊り一色に染まります。



次は、三好市西祖谷山村にある祖谷のかずら橋です。かずら橋は、冬場の厳格な山谷で採取した自生のシラクチカズラを編んで作られています。長さ 45m、幅 2m で、使われているシラクチカズラの重さは 5 トンにもなります。3 年に 1 度、1 カ月ほどかけて、橋の掛け替え工事が行われ

ます。かずら橋は周囲を木々に囲まれ、下には祖谷川が流れており、春には藤の花が咲き、夏は新緑を、秋は紅葉を、冬には冬景色を楽しむことができます。

最後に、三好市にある四国中央橋です。三好市池田町は、四国の主要幹線である一般国道 32 号と 192 号が交差しています。この四国中央橋は、三好大橋付近の交通渋滞解消のために作られました。四国中央橋の下には、徳島県を西から東へ流れる四国三郎、吉野川が流れています。四国中央橋という名前は、徳島県三好市が四国のほぼ中央に位置していることから名付けられました。



目次	
01	東みよし町屋間駐在所 地域の安全を守る会の概要
02	東みよし町屋間駐在所 地域の安全を守る会の活動内容
03	今後の課題

01 東みよし町屋間駐在所 地域の安全を守る会の概要	
1	結成年月日 平成 5 年 6 月 17 日
2	活動地域 徳島県三好郡東みよし町
3	会員数 15 名 (平均年齢 73 歳)
4	活動の特色 地域に寄り添った防犯活動

それでは発表に移ります。初めに、今回の概要について説明させていただきます。

私たちが活動を開始したのは平成 5 年 6 月 17 日、活動地域は三好郡東みよし町です。会員数は 15 名で、平均年齢は 73 歳。東みよし町に居住する住民で組織されています。三好警察署と緊密な連携をはかり、犯罪や交通事故をなくし、明るい地域社会を作ることが目的としています。このため、警察と連絡協調体制を確立し、防犯パトロールや各種キャンペーンなどを通して、地域住民に対する防犯意識の普及・高揚や犯罪の未然防止、暴力の追放、少年の非行防止と健全育成活動に携わっています。



5

管内情勢

- ・ 総面積 122.48平方キロメートル
- ・ 世帯数 6,272件
- ・ 人口 13,549人

次に、活動地域と管内の情勢です。東みよし町は徳島県の西部に位置し、総面積は 122.48 平方キロメートル、世帯数は 6272 世帯、人口は 1 万 3549 人です。東みよし町には、徳島県の名勝・天然記念物に指定されている美濃田の淵があります。美濃田の淵は幅 100m、長さ 2km にわたる深い淵であり、吉野川中流域にある景勝地で、遊覧船も運行されています。徳島自動車道吉野川ハイウェイオアシスにも隣接しており、アクセスも良いところです。

吉野川ハイウェイオアシスには吉野川を眺望できる入浴施設「美濃田の湯」や、四国内の特産品を販売する物産センター、子どもに人気のアスレチック遊具が揃っている公園、展望台、キャンプ場等があります。8月にはオアシス祭りが開催され、多くの人で賑わいます。

次に犯罪情勢です。

東みよし町を管轄する、三好警察署管内における令和4年中の刑法犯認知件数は47件でした。平成24年中の、三好警察署管内の刑法犯認知件数は254件だったので、この10年間で管内は1/5にまで犯罪が減り、とても落ち着いた地域となりました。私たちの活動が、地域の犯罪の減少に少しでも貢献できているのではないかと、大変やりがいを感じています。



02 東みよし町昼間駐在所 地域の安全を守る会の活動内容

1 防犯活動の活性化

- 毎月第1金曜日の定例会
- 年間約3回の研修会等への参加

2 子どもの安全を守る活動

- 登校時の立哨活動
- 小学校の校外活動への同行
- 小学生マラソン大会見守り活動

それでは、私たちの活動の様子を見ていただくことにします。

私たちは毎月第一金曜日に、昼間駐在所員を交えた定例会を行っています。定例会は座談会形式で、地域の防犯情勢や、その対策について意見交換を行い、重点目標を挙げ、地域の実情に合わせた活動ができるように計画を立てています。また、自治体が主催する防犯研修や、三好警察署で行われる青パト講習会等の研修会にも参加して、勉強をしております。

私たちは子どもに対する犯罪を防止するため、特に子どもの見守り活動に力を入れております。管内には2つの小学校があります。通学路には信号のない横断歩道等があるため、子どもたちが事件や事故に巻き込まれることなく、安心して登校できるように、他の防犯ボランティア団体や警察と協力して、登校時間帯に合わせた立哨活動を実施しています。

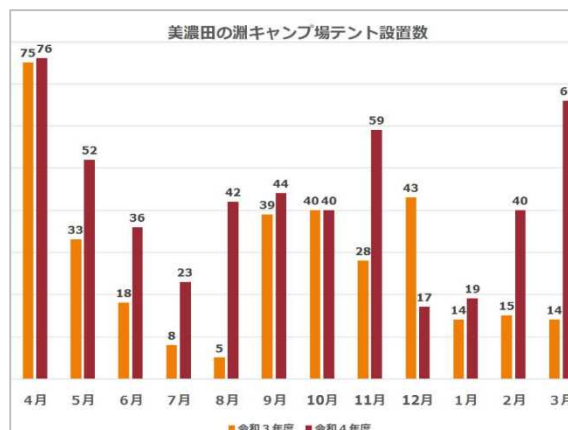
このような活動を重ねているうちに、小学校から見守り活動の要請を受けるようになりました。小学校では毎年4回ほど、自分たちの住む地域を知るために、子どもたちが教員と一緒に徒歩で地域を探索する校外活動の授業があります。その校外活動に私たちが同行し、教員と協力しながら子どもたちの活動中の事件や事故防止に努めています。子どもたちが自分の暮らす地域について学ぶ姿を見ることは本当に嬉しく、会員も楽しみながら校外学習に同行をしております。

また毎年行われる小学生マラソン大会では、各ポイントに会員が立ち、警察や教員、保護者な

どと協力しながら、子どもたちが交通事故に遭わないように見守り活動を行っています。



私たちは平成 20 年から、青色回転灯装備車での青色防犯パトロール活動を開始しました。現在も継続して、毎週月曜日と金曜日の下校時間帯に、通学路を中心に、パトロールを行っております。月曜日は各会員が、それぞれの居住する各地域のパトロールを行い、金曜日は全会員が東みよし町役場に集合し、一斉に東みよし町内の防犯パトロールを実施します。パトロールは、6 月から 9 月は午後 6 時 30 分から、日暮れが早い 10 月から 5 月は、午後 6 時から開始しています。



この棒グラフは、令和 3 年度と令和 4 年度に、吉野川ハイウェイオアシスにある美濃田の淵キャンプ場に張られたテントの数です。毎週金曜日の一斉パトロールの際には、必ずキャンプ場を見回り、テントの数を確認しています。テントの数が多いほど、県内外から多くの利用客が訪れていることになり、それに伴い、事件や事故が発生する可能性が高くなるためです。

このグラフからも分かるように、令和 3 年度に比べ、令和 4 年度はテントの数が増え、多くの利用客が訪問していることが分かります。令和 5 年度は令和 4 年度以上に利用者が増えることが予想されますので、今年もしっかりパトロールをしたいと考えています。週 2 日行っている私たちの青色防犯パトロール活動は、地域に定着しており、美濃田の淵周辺の地域住民からも「安心できる」とのコメントをいただいております。

週 2 回の定期的な青色パトロールとは別に、例年 8 月に東みよし町足代の八幡神社で開催される足代の月見祭りと、10 月に行われるオアシス祭りにおいても、犯罪や事故防止のため青色防犯パトロールを行っています。足代の月見祭りは境内の特設舞台上で、小学生が巫女として舞を奉納

します。また、境内には十数件の夜店が出て、福引きやカラオケ大会などが開催されます。

オアシス祭りは、先に紹介した吉野川ハイウェイオアシスの舞台上、阿波踊りや青年太鼓、フラダンス等の発表が行われます。

夜に盛り上がりを見せる足代の月見祭りは、夜間に防犯パトロールを行います。一方、日中に盛り上がりを見せるオアシス祭りでは、昼間に防犯パトロールを行っています。令和2年、3年は、コロナウイルスの感染拡大防止のため中止となりましたが、令和4年は2年ぶりに開催され、私達も防犯パトロールを実施しました。今年も祭が開催される予定であるため、事件・事故を防止するために、防犯パトロールの実施を計画しています。



次に、その他の犯罪防止活動を紹介します。

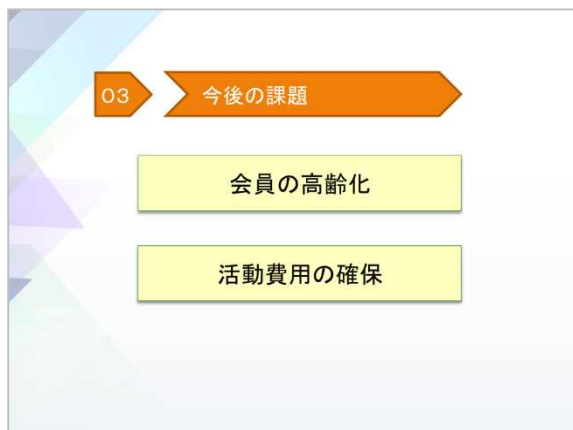
私たちは警察と協力し、生活安全課や駐在所員と一緒に、小学校で誘拐防止教室を行っています。そこでは、誘拐されないための合言葉「いかのおすし」を子どもたちに説明したり、また、子どもたちに協力してもらい、不審者役、子ども110番の家の人の役、誘拐されそうになる子どもの役を決め、ロールプレイング方式の訓練を行ったりしています。こうして、知らない人に声をかけられ

たり、追いかけられたりしたときに、どのように対応したらよいかを教えています。

また、今年の小学校の入学式では、新入生とその保護者に、誘拐防止や交通安全の啓発チラシを配布し、登下校時の事故・事件の防止を呼びかけました。保護者と一緒に登校する1年生に「気をつけて」「元気に登校してね」と呼びかけると、元気に「はい」と返事をしてくれたり、照れながら「ありがとう」と答えてくれたりしました。



私たちは、各種防犯キャンペーンの活動もしています。写真は管内の郵便局前で、三好警察署員とともに特殊詐欺被害防止キャンペーンを実施したときのものです。私たちも研修会や毎月の定例会などで、代表的な特殊詐欺の手口や発生状況などを勉強し、地域住民に被害防止の啓発を図りました。また、毎年春と秋の交通安全運動期間中には、小学校の近くなどで交通安全キャンペーンを行っています。特に行楽シーズンには車の往来が増加し、交通事故の発生件数も多くなることから、交通事故防止を呼びかけています。



最後に、今後の課題です。私たちが抱える課題は、会員の高齢化と活動費用の確保です。

私たちは毎年、3000円の会費を集めて活動費としています。私たちは、自分たちの活動に誇りを持ち、地域の安心・安全を守ることにやりがいを感じています。しかし、現在の会員の平均年齢が73歳であることを考えると、十数年後には活動の停滞が予想されます。このため、若い世代の参加を促したいのですが、仕事や会費の関係で、新規

会員になってくれる人を探すのが非常に困難であるのが現状です。

会員の高齢化への対策としては、東みよし町役場の協力を得て、町の広報誌に今回の活動についての記事を掲載し、まずは地域住民に私たちの活動を詳しく知ってもらい、一緒に活動したいと思ってくれる人を募りたいと考えています。また、現在、小学校のPTAと連携し、小学校の通学路における登下校時の立哨活動を行うなど、若い世代の属する団体と連携した活動を実施する機会があります。このような機会を通じ、町内に住む若者たちに活動への興味を持ってもらい、参加の促進につなげていきたいと考えています。

費用の確保についても、自治体等に働きかけていきたいと考えています。また、ボランティア団体の皆さんはどのような方法をとっているのか、今回、勉強させていただければと思っています。

以上が、「東みよし町昼間駐在所地域の安全を守る会」の活動発表です。ご清聴ありがとうございました。



講 評

大杉 ご発表、ありがとうございました。非常に多岐にわたる、素敵な活動をされているという印象を受けました。15名のメンバーで、このような多岐にわたる活動を全てされていることに非常に驚きを感じるとともに、本当に素晴らしい活動だと感銘を受けました。いろいろな活動の

中で、地域の方も、その青色のジャンパーを見るのだろうと思います。心理学では、単純接触効果と言いますが、何回も何回も出会うことによって好感度が上がる、好きになる、といったことがあります。そうした効果が非常に高そうだと思いますが、発表を聞かせていただきました。

これは単純に興味からお聞きします。小学校において誘拐防止教室をされるのは、非常に珍しいことではないかと思いました。どのような経緯で、この誘拐防止教室をされることになったのですか。

発表者 失礼いたします、徳島県警の橋本と申します。代わって質問に答えさせていただきます。毎年、小学校さんから警察署に、「今年も誘拐防止教室などを行ってください」と依頼をいただきます。その際に、地域のボランティアの方も一緒に行くことにより、ボランティアの方が地域で活動していることを知っていただける効果があります。また、地域の大人と一緒にロールプレイを行うことで、子どもたちにも楽しんでもらえるのではないかと思います、協力を依頼し、一緒に行わせていただいております。

大杉 ありがとうございます。小学校からの依頼と、警察との連携と。いろいろなところと連携するのは、非常に大事なことだと思います。私は誘拐防止教室をしたことがないので、参考にさせていただければと思います。

また、活動費用として3000円の会費を出されて、その上で志高く活動されていることにも、非常に驚きました。他の団体の方もそうかもしれませんが、なるべく自分たちの持ち出しがない状態で活動したいというところが、おそらく本音だろうとは思いますが。そうしたところに課題があるということですね。行政のさまざまな資金を活用しながら、また、このあとお話しする赤い羽根の共同募金等も使いながら費用を確保して、素敵な活動をぜひ継続していただければと思います。ありがとうございます。

発表者 費用の面ですが、町でユニフォームを作っていただいたり、4台登録している青色パトロール車のガソリン代を、年に一度、出していただいたりしています。こうした町からの補助もあるのですが、やはり、それだけではまだ、少し足りません。

大杉 それを上回る活動をされているということで、素晴らしいと思います。

蓮池パトロール隊（高知県）

皆さま、初めまして。高知県土佐市蓮池地区で活動しております蓮池パトロール隊の野原と申します。どうぞよろしくお願いいたします。このような発表の機会をいただきましたこと、さらに資料作成にあたりご尽力いただきましたことに厚く御礼申し上げます。子どもは地域の宝である、子どもは地域が守っていくということで、頑張っております。

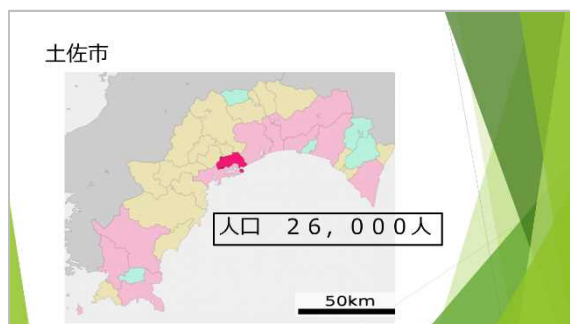
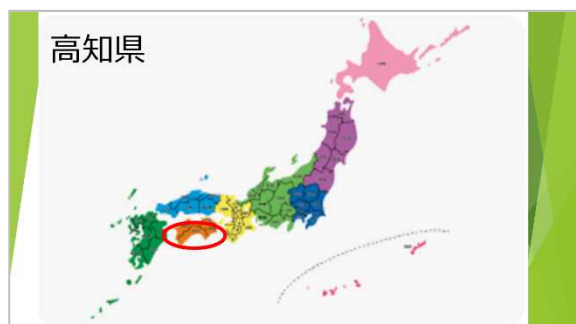


資料に「輝け！蓮池の子供達！希望あふれる未来へ！」とあります。この言葉をキャッチフレーズとしております。これは、今から5年ぐらい前に、当時の小学5年生、6年生が「第2の校歌を作ろう」と、自分たちで作詞したものです。それを、地元のシンガーソングライターの女性の方をお願いして、第2校歌として作っていただきました。当時の新聞にも掲載されております。

そして今日、このパワーポイントの操作をしていただきますのは、蓮池小学校の吉門直子校長でございます。



私たちが主に活動している蓮池を、簡単にご紹介します。今、話題になっている朝ドラ「らんまん」の初期の頃の舞台である高知県に、蓮池はあります。



土佐市は、高知県の県庁所在地である高知市の西隣、仁淀ブルーと呼ばれる仁淀川の西岸に位置しています。人口が2万6000ぐらいの小さな市です。蓮池地区はご覧の通り、ちょうど土佐市の中心部にあります。面積はあまり大きくありませんが、人口3600人ぐらい、住宅地と農地とが混在するような静かなところです。



私たちは、子どもたちの安全に特化して活動しています。蓮池小学校には、今、児童が232名います。蓮池は、わりと利便性のいいところです。流入人口も多く、その方たちが子どもさんを連れて来られます。そのため、いろいろなところで児童数が減少している中、数年間は児童数も減らず、むしろ増加しているという地域です。そうした232名の子どもたちを見守ることに特化して、私たちは活動しております。



蓮池と言われるだけあり、学校のすぐ北側に、蓮池公園というハスの公園があります。昨日、見に行きましたら、ハスの花がポツポツと咲いていました。毎年、祭を開催していましたが、コロナの影響などがあり、今のところはストップしています。



蓮池パトロール隊は、それまであった組織を発展的に解消し、平成23年に再発足したものです。同時に高知県タウンポリス連絡協議会に参加して、現在に至っております。平成27年には「高知県安全安心まちづくり功労団体」として表彰いただき、令和3年には文部科学省の「学校安全ボランティア活動奨励賞」を受賞しました。こうしたことにご推薦いただきましたことに、厚く御礼申し上げます。

現在、個人の隊員は32名、そして郵便局、小学校の2団体が属し、一緒に活動しています。

個人の方々は民生児童委員、青少年育成会議会員、少年警察ボランティア、地域安全推進員、学校支援協働本部コーディネーター、その他、本会の趣旨に賛同される地域の方々です。平均年齢68歳ぐらい、女性は9名いらっしゃいます。各自の自主性を尊重したゆるい結束のもと、無理をしない活動をモットーにやってきましたし、これからもそうした方針でやっていけたらと思っています。

蓮池パトロール隊
活動① 三木の日（低学年の登下校の見守り）



蓮池パトロール隊
活動② 新入生の下校指導



本会の活動は、蓮池小学校の児童の安心・安全を守ることに、まず主眼を置いています。8月以外の第3木曜日は、登校時の見守りと挨拶運動を実施しています。1年生、2年生は、この日は集団下校の日ですので、東西南北に分かれて、家へ帰るまで付き添いをして、道路の安全などのお勉強をしてもらい、交通ルールを守る大切さを教えております。

御多分に洩れずと言いましょうか、1年生、2年生でも、いわゆる放課後児童クラブに行く子どもが大変多くなり、家へ帰る子どもが少なくなりました。共働きが多い、核家族化している等の影響があるのだらうと思います。

このように、1年生はこの黄緑色のランドセルカバーを付けています。帰る途中、危ないところは危ないと注意し、指導しています。下校指導では、まず校庭に集まって、皆でご挨拶をして、それから学校前の横断歩道を渡して、各地域まで付き添いをします。

蓮池パトロール隊
活動③ 新入生歓迎遠足



こちらは、新入生歓迎遠足の様子です。1時間半ほどかけて、近くの運動グラウンドまで行きます。そのときは1年から6年まで、縦割りの20ぐらいの班を作ります。その班で、交差点を渡るなど、いろいろなことを経験しながら行くのですが、国道56号線という、非常に交通量の多いところを短い時間で渡らなければなりません。どうしても、先生の力だけで足りませんから、そうしたところのお手伝いをしております。こうした校外の行事については、積極的に協力させていただいております。

こちらは、同じく校外の持久走大会の写真です。校外に出て行くので、車も来るので危険です。そこで、このように要所に立って、安全を見守っています。

先ほども見ていただいた、蓮池小学校の前の道路は片側一車線、あまり大きな交差点ではありませんが、かつては子どもが立っていても、なかなか止まってくれないことがありました。しかし、警察の方が、取り締まりや、パトカーに乗っての巡回をしてくださったことで、地域のドライバーの意識もだんだんと上がってきているようです。私も、10年以上見ていて痛感しております。交差点では安全を守り、人が優先であることを、車に乗る方が理解していただくことが大事です。それが今、少しずつ身につけてきつつあるので

蓮池パトロール隊
活動④ マラソン大会走路安全確保



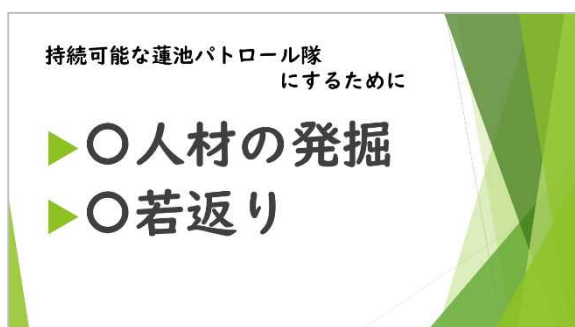
はないかと感じております。



蓮池小学校は、安心・安全に対する意識を高く持っております。児童が自主的に安全力を作ることに、学校も力を注いでいます。

通学路の点検をして、行政、警察に提言したり、こちらの写真にあるように、隊員がゲストティーチャーとして、授業に参加したりする活動もしております。

発足以来、15年近くが経ちました。児童と学校の安全に必要と思われることについては、進んで協力していきたいと思っています。学校も非常に熱心に取り組んでくださっているので、私たちのやる気も出てきます。



次に、課題点についてです。どこでもだいたい同じようなことを言われると思いますが、やはり、人材の発掘、並びに若返りが喫緊の課題であろうかと思っています。私が始めて以来、15年近くなりますので、マンネリ化してしまうところもあります。全く違った考え方で、この会を発展させていただくことも大切ではないかとも思います。やはり、

あくまでも無償のボランティアです。過度な負担を感じさせないように、趣旨に賛同してくれる方々の発掘のため、今の会員さんや、その他いろいろなところにアンテナを伸ばして人集めをしていかなければいけないと思っています。

今は、学校さんと郵便局さんが協賛団体として、活動していただいております。郵便局さんには下校時の3時から、職員さんを派遣していただき、ご協力いただいております。地域には地元のJAさん、消防署さんもありますので、そうした方々にもお声をかけて協力をお願いしたいと思っています。本会は、2つの団体から3万円ほどの寄附をいただきました。切手代等に使っています。

学校連絡網が土佐市にもあります。「すぐーる」という名前で、このように連絡事項を通信できます。私はパトロール隊としての仕事のほか、学校の支援本部のコーディネーターもしております。春休み中の学校の美化活動についてお声かけをしたときにも、この「すぐーる」使わせていただき



ました。こうしたものを使って、経費節減を図っていこうと思います。

参加者は無償で、手弁当で活動をする事になっています。しかし、夏の暑いときに来てくれたなら、ジュースの1本、お茶の1本くらい渡せるような組織でありたいと思っております。お金集めが下手なので、なかなか思うようには行きませんが、やりようによっては、お金はすっと集まると思います。しかし、なるべくお金をかけないようにと、考えつつやっております。コロナ禍で、仲間同士の声かけや、たまには一杯やって、というようなことも全く行われておりませんでした。

最後になりましたが、独創的な、児童たちが非常に熱心に作った交通安全啓発のビデオがあります。また、土佐警察署の方と一緒に作ったコマーシャルもあり、今、市役所や警察署などで流れております。それをご覧にいれて、おしまいとしたいと思います。

交通安全啓発 PV「交通安全マスター」

スピードには気をつけて

自転車は車の仲間だよ

乗り方は 大丈夫？ 交通ルール 守ろうね

自転車は坂道 弱点 スピード落とそうね

曲がり角に蓮の花 一旦止まって確認だ

イヤホンせずに乗ろう

ヘルメットもちゃんとかぶろう

二人乗りはルール違反です 大事な命 守ろうよ レッツゴー

けがゼロおまじないは「ぶたはしゃべる」だよ

ブレーキ タイヤ ハンドル 車体 ベルはリリン リンリンリン しっかりとなるかな

自転車 チェックよろしく！

渡る時は全集中 横断歩道 気をつけて

大けがじゃすみません！ 飛び出し注意 事故のもと

車がたくさん通る 白線 近すぎはダメ 大事な命をみんなを守っていこう

しまうま発見したよ 左右見渡し ゆっくりと 車が来てない 大丈夫？

車は急に止まれないよ だから

ヨシ！ わたろう その前に、止まる・見る・挙げる、だよ 止まって左右確認しよう

車が止まったら 手を挙げて渡るんだ ペコ お礼 忘れずに

うれしい楽しい毎日にしましょう 事故がない未来を作ろう

ルールを守れば みんながニコニコ 今日ハッピーハッピーデー



交通安全啓発動画 CM「みんなでかぶろう！」

ヘルメット ヘルメット 自転車 ヘルメット
みんなをまもる 自転車ヘルメット

みんなでかぶろうね



このようなプロモーションビデオを作って、流しております。これで発表を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。



講 評

大杉 ご発表、ありがとうございました。すごく素敵な動画を最後に見せていただきました。いろいろと言おうと思っていたことが飛んでしまったくらい、とても素敵な動画でした。この場に校長先生も来ていただいて、地域の防犯の皆さんと小学校との密接な関わりを感じさせていただきました。素晴らしいと思います。この動画はどのような経緯で作成されたのでしょうか。もちろん、子どもたちだけでは作ることができないと思いますが、どのような方法で作成されたのでしょうか。

発表者 ご質問、ありがとうございます。もともと、蓮池パトロール隊の皆さんに守られて、子どもたちが登下校できているという環境があり、子どもたちも、交通安全の意識がすごく高くなっているというベースがございました。長野県では、信号機のない横断歩道で車は停止する、それは、横断歩道を渡る子どもたちが、いったん止まって車にお辞儀をするからだ、という情報がありました。「そういう文化があるから車が止まるのだ」「いや、止まってくれば誰でもありがたいと言う」といった「卵が先か」のような議論がありました。そうした課題意識を踏まえながら、4年生の総合的な学習の時間で、こうしたビデオを作りました。蓮池の子どもたちは、横断歩道を渡る時は、止まってお辞儀をします。そうしたことがベースとしてはあり、それはパト

ローラー隊の皆さんから数年前に、そのようにやってみたらどうかというご提案をいただいたと聞いております。私が3年前に赴任したとき、では、これを全校活動としようと、お教えいただきながら今も取り組んでいるところです。そうした流れの中で、学習の成果としてプロモーションビデオを作りました。子どもたちが歌詞を考えて、曲は、今も講師として在籍している教員が手がけ、ビデオに仕上げてくださいました。

2本目は、別の年度の4年生です。高知県の条例では、数年前から高校生までは全員ヘルメットをかぶることになっていました。この4月からは、年齢13歳未満という年齢制限が撤廃されたことを昨年度の4年生が学び、自分たちの足元を見つめる意味でも、きちんとヘルメットをかぶろうというビデオを作りました。子どもたちの願いは、「警察の方と一緒に撮りたい、そしてパトロール隊の方と一緒に撮りたい」ということでした。その願いを、関係機関の方々のご協力で実現させていただいたというところです。

大杉 ありがとうございます。いろいろなところと連携しながらの活動が、素晴らしいと思いました。そして、作成の経緯にやはり、パトロール隊の皆さんの、最初の活動の下地があったというところも非常に素敵です。野原さんのお話の中で「成果が感じられる」とありました。ボランティア活動は、成果が見えにくいことも課題の1つだと思っていたのですが、成果が感じられるとおっしゃっていたので、それもすごく素晴らしいと思いました。私からは以上です。

嘉川地区防犯対策協議会（山口県）

皆さん、こんにちは。ようこそ、山口市へおいでくださいました。山口弁では、「おいでませ、山口へ」と言います。私は、嘉川地区防犯対策協議会の後藤と申します。それでは、「安心と信頼でつくる未来へのサポート」と題して、発表させていただきます。



**安心と信頼でつくる
未来へのサポート**

嘉川地区防犯対策協議会

山口市の概況



面積 1,023.23平方キロメートル（県内最大）
人口 約190,000人

まずは山口市の概況です。山口市は山口県の中央部に位置し、北に中国山脈を背負い、南に瀬戸内を臨む、南北に長い形状です。東西約46km南北約58kmの広がりを持ち、面積は1023.23平方キロメートルと、県下では最も広い行政区域面積を有しています。人口は19万人です。

続きまして山口の名所です。

山口市にも良いところがあります。ぜひ見ていただきたいのですが、室町時代、大内氏が京を模して築いた山口は、華やかな大内文化の面影を色濃く残し、史跡が点在しています。その1つ、京都の鴨川に見立てて作られた一の坂川。春にはつつじ、初夏にはゲンジボタルの名所です。

山口市の名所（山口市の観光スポット）



国宝瑠璃光寺五重塔は1442年建立。全国に数多い五重塔の中でも、檜皮葺は4基のみ。日本三名塔の中では唯一の檜皮葺です。

山口サビエル記念聖堂は、フランシスコ・ザビエルが山口を訪れてから400年を記念して建てられたものです。平成3年に焼失し、平成10年に現在の姿に再建されました。1552年、旧暦12月9日、西暦12月24日に、山口の地で降誕祭が行われました。これが日本で初めて祝われたクリスマスだと記録されています。そこで日本のクリスマス発祥の地である山口市は、「12月、山口市はクリスマス市になる」を合言葉に、毎年さまざまなイベントが開催されます。12月は郵便物が「山口県クリスマス市」で届きますので、ぜひ、山口県クリスマス市嘉川地区に、地区の名産を送っていただければありがたいと思います。

その他、白狐が見つけたという伝説の湯田温泉。萩市から山口市にまたがる総延長 12km の美しい溪谷、長門峡等、数多くの観光スポットがございます。



嘉川地区の紹介です。主要な幹線道路が東西南北に走り、陸の玄関・新山口駅、空の玄関・山口宇部空港、県の玄関・山口県庁まで、30分以内で全て行くことができる交通の要所です。2801世帯、人口は6802名、39の自治会で構成されています。

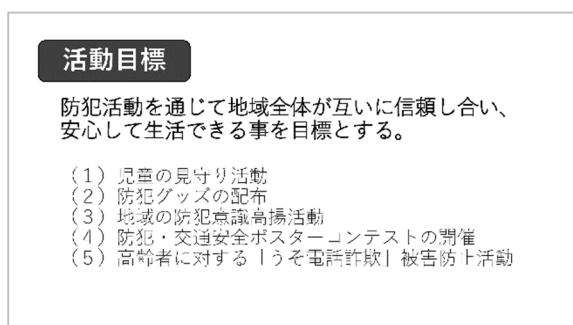
嘉川地区は水がきれいで、造り酒屋の金光酒造がごございます。山頭火というお酒が有名ですが、嘉徳の郷という嘉川独自のお酒もあります。嘉川地区はその昔、酒の消費量がかなり多かったと記録されています。

また、昔から海苔づくりが盛んで、海沿いの民家では、ほとんどの家が海苔をつくっておりました。現在は海苔業者の3戸ですが、最盛期には51戸ありました。

続きまして、嘉川地区防犯対策協議会の紹介です。交通の要所である嘉川地区は、他地区から侵入しやすく逃げやすい地域です。高齢化率が高く、JRは無人駅ばかりで防犯カメラの設置数は少なく、家の鍵かけも他地区に比べてあまりしないところ。そのため、詐欺などの犯罪を未然に防ぎ、地域の安心と安全、信頼をつなぐ大切な活動組織として、嘉川地区防犯対策協議会がごございます。



設立は昭和49年12月21日。会員は各自治会選出連絡員と理事の、合計46名です。ただし、実際の活動は理事8名で行うことが多く、山口南交通安全協会嘉川支部と嘉川地区交通安全対策協議会と合同での活動も少なくありません。この3団体の理事を兼ねているメンバーが多く、また私自身もその3つ全ての会長、支部長を兼ねております。何よりも役員確保が問題点です。



続きまして、活動目標です。毎月18日は防犯の日と定められていますが、認知度は低いと思います。防犯に関する、あるアンケート調査では、日本の犯罪対策を不十分だと思っている方は87.6%ですが、日頃から防犯対策をしている方は57.6%。また、警察などの活動が抑止力につながっていると思う方は71.5%だそうです。私たち

地域の防犯対策協議会は、残りの28.5%のうちの、ほんの少しでも埋めることができればと考えながら、日々活動を、微力ながら、していかなければならないと考えております。

地域間・警察等との情報提供、警戒活動、防犯啓発活動などはもとより、地域コミュニティを築き、人を見たら泥棒と思えではなく、挨拶を交わし合い、声かけし合い、協力し合うことで犯罪被害を防がなければならないと考えております。コロナで間合いを広げるようになってはいますが、なるべくなら、間合いは広げても挨拶は目と目を見合わせながら、きちんとしていかなければならないと考えております。寛大さ、思いやり、責任感、自己犠牲などの価値観である奉仕の精神。自己実現や社会貢献の意義であるボランティア活動。こうした崇高な精神で日々活動しております。と言いたいところですが、大きな負担がなく、持続可能な活動ができるようなアイデアと工夫を、常に模索している状態です。

子ども登下校の見守り。前会長が元警察官だったこともあり、知識豊富でさまざまなアイデアを出される方でした。そのうちの1つが「子どもながら見守り活動」のマグネット作成です。これを地域内の方々に配布したり、タクシーなどに貼ったりしています。



山口市は、全国の県庁所在地及び政令都市の中で、世帯あたりのガソリンの購入量が、長年ダントツ1位です。2位の金沢と比べても、100リットル以上差をつけているぐらい、とにかくガソリンをよく使うところです。一方で、公共交通バスやタクシーの利用率はワースト3に入っていて、マイカー率が大変高いところです。つまり、高齢者ドライバーも多いため、防犯面と同時に、交通安全面も意識しながら見守り活動しております。



新1年生に防犯ブザーの配布。

地域内にある2つの小学校に防犯ブザーを配布しております。

また、地域内の小学校2校と中学校1校の長期休業期間中には、地区委員と青少年育成協議会とで見守り夜警を実施しております。駅や学校など、たまり場になりやすいようなところを中心に、見守っております。



地域安全自動車パレード。地区内を約2時間程度、音声スピーカーで流しながら巡回しております。これは、6月、10月、12月の年3回、実施しています。私たちの嘉川は、先ほども申し上げましたが、鍵をかけません。私の父もそうでしたが、新しくドアを付けたときに、いきなり鍵を取り外してしまうぐらいなのです。「鍵をかけるような人間になっちゃ、つまらない」「人を信じられないのか」という地域ですので、こうしたパトロール等で啓発活動しております。

続いて、防犯キャンペーンです。毎年6月にスーパーやドラッグストアなどの店舗前で実施しております。今後は高齢者の方が多い病院、また、うそ電話詐欺で使用される銀行やコンビニでも実施していく予定です。



中学校で、自転車の二重ロックの推進、ヘルメット着用について、ご家族の方にも伝えてもらうよう、登校時に啓発活動を実施しております。

交通・防犯合同講演会を、年に一度実施しております。警察の方からは、交通安全や防犯対策、密入国者についてお話を聞きました。そのほか、怒りの抑え方についてアンガーマネジメントの講師から、そして公共交通利用のモビリティマネジメントについて山口市の交通政策課の方からの講演も開催しました。また、以前私の家に、トルコ人の大学院生の女性が1年間ホームステイしておりましたので、その女性にトルコについて講師をしてもらったこともあります。

高齢者、独居老人宅への訪問も、月1回、実施しております。

こちらの写真は、寸劇でうそ電話詐欺の啓発活動をしている様子です。この寸劇の犯人役は理事なのですが、実際に犯罪をしてしまうのではないかとというぐらいの上手な演技でした。この演技を見たときに、騙されてはいけない、悪い人たちは上手に心理作戦で入ってくるものだと、よく分かりました。



高年齢者、独居老人宅への訪問も、月1回、実施しております。





防犯・交通安全ポスターの審査会を、年に一度、行っています。区内の小中学生にポスターを書いていただき、山口南警察署の交通課の方々、生活安全課の方々、それから嘉川駐在所さんと私たち理事で審査をしております。毎年 100 枚前後の応募がございます。

この防犯・交通安全ポスターは、毎年 11 月 3 日に開催する嘉川地区の文化祭で展示しております。山口南警察署の玄関にも、展示をさせていただいております。

また、先ほども申し上げましたが、戸別訪問も実施しております。



放置自転車撤去。「3 カ月半後に撤去します」と書いた札を付けて、その期間が過ぎても撤去していない自転車については、4 カ月後に撤去しました。この自転車撤去も、JR の駅の横にあるので JR に言うのか、または市に言うのか、警察に言うのか、この取組自体に入る前が大変でした。



この写真は、5 月 5 日に弊社の渡邊常務取締役がうそ電話詐欺の被害を未然に防ぎ、山口南警察署の中尾署長様から感謝状をいただいた際のものでした。

これは、弊社のタクシーをご利用いただいた一人暮らしの高齢女性が、NTT を名乗る男から、電話料金の滞納分を電子マネーで支払うように指示されたというものです。その内容を弊社の渡邊常務が聞いており、お客様に小声で「詐欺じゃないですか」と言うと、女性も「そんな気がする」という感じだったそうです。そこで、コンビニに着いてから、その駐車場で山口南警察署に通報しました。相手の男は、手間取っていると思い、腹を立てたようで、「運転手に変われ」と言ったそうです。そこで、常務が電話に出たところ、

「どうしてそんなに手間取っているんだ」と言うので、常務が「歩行器があるので、乗り降りに手間取っているのです。ところで、なぜそんなに急かされるのですか」と聞いたら激高したようで、「孫が電話して何が悪い」と言ったそうです。最初にNTTと名乗っていたのに、孫になっている。その時点で常務は「これは詐欺だ」と確信し、警察官が到着するまでの間に、いろいろ聞き出そうしました。口座番号など、いろいろなことを上手に、怒られながらも聞きだそうとしたのですが、途中で充電がなくなり、ブツッと電話が切れてしまいました。結局、その高齢女性の被害額は、うちのタクシー代だけでしたが、悪い奴らがいるのだなと思いました。

後ほど大杉先生からもお話があると思いますが、詐欺は、まずは相手をパニックにさせるそうです。パニックになると、冷静さを失います。先ほどの高齢女性の方も、固定電話はなく、携帯電話もauなのです。そこにNTTが請求してくるはずもないのに、NTTだと言われて信じてしまった。また、少々問題だともうございました。うちの常務が「詐欺じゃないですか」と言ったときに、はっと気がついた一方で、30万円を払うことによって、この問題から逃れたいと思われたようなのです。しかし実際は、さまざまな事件を見たり、警察の方から教えていただいたところによると、1回払うと、どんどん追い込みをかけてくるそうです。ところが人間とは弱いもので、30万は惜しいけれど、その場でお金を払えば終わるのではないか、もう二度とかけてこないのではないかと思うようです。こうした詐欺には、とにかく気をつけていかなければならないと思いました。

また、現在ではネット犯罪も横行しています。私たち防犯ボランティアには若者会員が少なく、そうしたネット犯罪等に対する知識が薄いという問題点があります。こうした防御策についてもさまざまな情報をいただいて、私たちがそうした面でももっと活躍できるようにしなければならぬと考えております。

防犯活動を通じて、地域住民がお互いに信頼し合い、安心し合い、生活ができるようになる。そして、これらの活動が継続して行われることによって、幸せな未来が築かれるのだと思います。私たち協議会員に、そうした未来のサポートができればということで、今回のテーマとさせていただきます。

一方で、交通の要所でもある嘉川地区ですから、白いクラウンの九州ナンバーがいつもプールのところに止まっていて、子どもたちを追いかけたり、声かけをしたりする事案がありました。それから、パンツ一丁で自転車に乗った男が子どもたちを追いかけたり、声をかけたりすることもございました。それで、私も夕方になるとパトロールをしていたのですが、私も長年、白いクラウンばかり、10回ぐらい乗り換えているためか、その間に3回ほど通報されました。

それを機会に山口市の教育総務課に行って、アンケートを作るから2日間で緊急アンケートをとってほしいとお願いしました。子どもと大人に分けて、通学路の危険箇所を書かせたら、子どもと大人では、視点が全く違うことに気がつきました。今は当たり前のことですが、平成14年、15年のあたりは、そうした知識が誰にもありませんでした。通学路というのは交通の安全面を考えて作られているものですから、死角になる部分が多かったのです。そのことについて山口市にも何度か行って、当時の市長さんやいろいろな方をお願いをして、予算をつけてもらいました。

そして、私たちの嘉川地区と隣の狭山地区を合わせて川西地区といいます。川西区に見守りボランティアを初めて設立しました。私は、沿岸警備協力会に加盟しております。以前の名前は沿岸安全協力会でしたが、それに最初から加盟しておりました。警察の方にもさまざまな情報をいただいて不審者対策をしてきました。

しかし、いくらやっても、私たちは本当に微力なので、どのようにしたらよいかと、すごく考えます。今日はさまざまな事例を教えていただき、非常に勉強になりました。ありがとうございました。

ご清聴ありがとうございました。

ご清聴ありがとうございました。

講 評

大杉 ご発表、ありがとうございました。お話がとてもお上手で、大変面白く聞かせていただきました。それと同時に、プレッシャーを感じながら、今からコメントさせていただきたいと思っています。

どれも素晴らしい活動だと思いました。どのような地域かを非常に意識されながら、地域に即した活動をされているところが、すごく素敵だなと思いました。鍵をかけないこと、車が多いこと、そのあたりを考えながら活動されていらっしゃると思います。企業と地域との連携でも、ご自身が会社をされているためもあるかと思うのですが、防犯のCSR、Corporate Social Responsibility、企業の社会的責任を意識しながら活動されているのだらうと思いました。そうしたところもこれから、タクシーだけではなく、広がって行くのだらうと感じました。

それから、「あとで詐欺の話も」とのリクエストがありましたが、詐欺の話は入れていなかったもので、どうしようかと思いながら聞いていました。詐欺のお話では、うそ電話詐欺被害防止活動、そして戸別訪問活動をされているとのことでした。高齢者の防犯も意識され、活動されていることも、とても素晴らしいと思いました。子どもの見守りは「ながら」のできるもので、そうした活動をされている団体が多いのではないかと思います。人数が少ない中で、しっかりと戸別訪問されていることが素晴らしいと思いました。

詐欺の話では、どんな詐欺があるか、どんな状況があるかは、警察から地域へ広報されていると思います。しかし、広報だけでは詐欺被害は止められないという話が、犯罪心理学では出ています。では、どうすればよいかポイントになっています。やはり、最終的に詐欺の被害を止められるのは地域の方だと、犯罪心理学の学会でも話がありました。地域で皆さんがつながってい

ること、誰かに相談ができることが非常に大事だと言われていいますので、とても大きな力になっているのではないかと思います。

それから、うそ電話の寸劇も非常に面白いと思いました。どのような経緯で寸劇をすることになったのか、どのように役割分担されているのかなどを教えていただければ嬉しいです。

発表者 私たち嘉川地区は災害が少なく、防災訓練を大掛かりにやっても、人がほとんど来ません。そして、先ほども申し上げましたが、鍵もあまりかけませんから、かなり防犯意識の低いところなのです。ですから、私たちが一生懸命スピーカーで流しても、耳に入ってこない。ところが寸劇など、身近な方が集まって、笑いも含めながら何かをやっている、だんだん入ってくると思うのです。交通事故でもそうですが、一瞬、安全意識を持つことで事故防止になります。うそ電話も一瞬冷静になると、被害防止になる。そこで寸劇など、私たちの思いが、届いてほしい人にきちんと届く方法を模索していかなければならないと、常に考えております。なかなか難しいところですが。

大杉 ありがとうございます。工夫されながら活動されていること、本当に見習いたい、真似させていたいただきたいと思いました。ありがとうございます。